

高校公民プリント（過去問類似）

源流思想と宗教 No.2

名前

得点

/10

問1 古代キリスト教の教父アウグスティヌスは、人間はアダム以来の原罪を背負っているため、自らの意志や善行によって救われることはなく、ただ神から一方的に与えられる無償の愛によってのみ救われると説いた。この無償の愛を指すキリスト教思想上の言葉は何か。 (2017年 全国公立入試 類似)

1. 神の意志 2. 神の恩寵 3. 神の摂理 4. 神の啓示

問2 唐の時代に陸路でインドへ渡り、無著や世親によって大成された、万物はただ心の働きが創り出したものにすぎないとする仏教思想の経典を中国へと持ち帰り、その漢訳と普及に努めた僧侶は誰か。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 慧遠 2. 法顕 3. 玄奘 4. 義浄

問3 パウロは、人間は自らの力では律法を完全に守ることができない罪深い存在であると考えた。彼は、人間が救われて神から「正しい者」とされるのは、律法の遵守によるのではなく、イエス・キリストの十字架による贖罪を受け入れることによってのみ可能であると説いた。このパウロの思想を何と呼ぶか。 (2018年 全国公立入試 類似)

1. 信仰義認 2. 二重予定 3. 万人祭司 4. 聖書主義

問4 古代ギリシアの哲学者プラトンは、人間が正しい行為を行えない原因を、精神を構成する諸要素の不調和に求めた。彼が、真理を認識する部分が意志や肉体的欲求を統御できなくなった状態として説明した、人間の精神を3つの領域に分ける説を何というか。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. 万物の尺度 2. 魂の三分説 3. 洞窟の比喻 4. 万物の根源

問5 中国古代の思想家である荘子は、人為的な道徳や社会的地位などの世俗的な価値観から離れ、自己の心身の束縛を忘れて大自然と一体化することを説いた。このように、あらゆる対立や執着を超越し、何ものにも囚われない精神の絶対的な自由を得る境地を何と呼ぶか。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. 齊物論 2. 大宗師 3. 逍遙遊 4. 養生主

問6 初期キリスト教の伝道者パウロが唱えた思想で、人間は自らの力で律法を完全に実行することはできず、律法によっては自らの罪を自覚することしかできないため、イエス・キリストの十字架による贖いを信じることによってのみ神から正しい者と認められるとする考え方を何というか。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. 万人祭司 2. 三位一体 3. 聖書主義 4. 信仰義認

問7 キリスト教の救済観において、人類が背負う根源的な罪を贖うために自ら十字架にかかって死に、ユダヤ教の過越祭における生贄の羊にたとえて「神の小羊」とも称される、キリスト教の創始者は誰か。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. ブッダ 2. パウロ 3. イエス 4. モーセ

問8 人間は、科学的知識や技術を用いて自然を支配するだけでなく、目に見えない超越的な存在に対して畏敬の念を抱き、神に祈りをささげるという宗教的な営みを行ってきた。このような営みの中に人間の本質やあり方を見出す人間観を、ラテン語で何と呼ぶか。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. ホモ・シンボリック 2. ホモ・レリギオース 3. ホモ・エコノミクス 4. ホモ・ルーデンス

問9 墨子が唱えた思想において、儒家が説く親族への愛のような段階的な愛を差別的なものとして否定し、自他の区別なくすべての人を平等に愛すべきであるとする主張を何というか。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. 兼愛 2. 非攻 3. 仁政 4. 法治

問10 儒家が主張する仁や義などの道徳を人為的な偽りであると批判し、作為を排して宇宙の根本原理であるありのままのあり方に従うことで、真の生き方が得られるとする、道家の祖とされる思想家が提示した根本的な生き方の態度を何というか。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 王道政治 2. 兼愛非攻 3. 無為自然 4. 合従連衡

答え合わせ・解説 No.2

問1	答え 2 神の恩寵	アウグスティヌスは、人間の自由意志や善行による救済を主張するペラギウス派を異端として退け、人間は原罪ゆえに自力では救われず、ただ神の無償の愛（恩寵）によってのみ救済されるという恩寵論を唱えた。
問2	答え 3 玄奘	唐代の僧である彼は、仏教の真理を求めて陸路でインド（ヴァルダナ朝）のナーランダール僧院などに留学した。帰国後、無著や世親が大成した唯識思想の経典をはじめとする膨大な仏典を漢訳し、中国における法相宗の開祖となった。彼の旅行記は『大唐西域記』として知られている。
問3	答え 1 信仰義認	パウロは、人間は善を望みながらも自らの力では望まない悪を行ってしまう罪深い存在であるとし、律法を遵守することによって自力で救われることは不可能であると考えた。救いは、イエス・キリストが人類の罪を贖うために十字架にかかったことを信じることによるのみ得られるとし、この「信仰によるのみ義とされる」という考え方を信仰義認と呼ぶ。この思想は、後に宗教改革を行ったルターらにも決定的な影響を与えた。
問4	答え 2 魂の三分説	プラトンは人間の魂を、真理を認識する「理性」、意志や勇気の源となる「気概」、肉体的な欲求である「欲望」の3つに分けた。彼は、理性が他の2つの部分を統御し、全体として調和が保たれている状態において「正義」の徳が実現されると考え、過ちや悪徳は理性が他を統御できず調和が崩れた状態であると説明した。
問5	答え 3 逍遙遊	荘子は、人為を排して自然のままに生きる「無為自然」を重んじ、自己の心身を忘れて大自然と一体化する修養を通じて、一切の対立や執着から解放された絶対的自由の境地である「逍遙遊」に達することを理想とした。これは、儒家が説く人為的な道徳（仁義など）による自己束縛からの解放を目指すものである。
問6	答え 4 信仰義認	パウロは、人間が自らの力で律法を完全に遵守することは不可能であり、律法はむしろ人間に自らの罪深さを自覚させる機能しか持たないと考えた。したがって、人間が救われる（神から義とされる）のは、律法の実行という人間の行為によるのではなく、イエス・キリストの十字架による贖いを信じる信仰のみによるという思想を主張した。この思想は、後に宗教改革期においてルターらによって再発見され、プロテスタントの核心的な教理となった。
問7	答え 3 イエス	キリスト教において、この人物は全人類の罪を身代わりに背負って十字架にかかり、死を遂げることで人々を神の怒りから救ったとされる。この犠牲的な役割は、ユダヤ教の伝統において罪の贖いのために捧げられた生贄の羊になぞらえられ、「神の小羊」と表現される。
問8	答え 2 ホモ・レギオース	人間は古来、人知を超えた存在に対して祈りをささげ、自らの生を意味づけてきた。このような宗教的な営みを行う点に人間の本質を見出す人間観を「ホモ・レギオース（宗教人）」と呼ぶ。これに対し、理性を特徴とする「ホモ・サピエンス（英知人）」、道具の製作を特徴とする「ホモ・ファールベル（工作人）」、遊びを特徴とする「ホモ・ルーデンス（遊戯人）」などがあり、これらと区別して理解することが重要である。
問9	答え 1 兼愛	墨子は、社会の混乱の原因を人々が自他を区別して互いに愛さないことにあると考え、差別なき愛を説いた。これに対して儒家は、親愛の情から順次広げていく段階的な愛を重視する立場から、この主張を親子の秩序を乱すものとして厳しく批判した。
問10	答え 3 無為自然	儒家が説く仁や義などの道徳を人為的なものとして否定し、作為を捨てて自然のあり方に身を委ねる生き方を指す。これは道家の祖とされる思想家によって提唱され、のちの老荘思想の基盤となった。